

ふくしまユニバーサルデザインの今

～2010年に向けて～

《提案と緊急報告》

■ FUDの原点に返って

FUD 理事長 佐々木善壽



第10回ふくしまユニバーサルデザインフェアが終わり、今年はFUDの原点、NPOの原点に返って、もう一度我々の足元を見つめなおし再出発を図ろうとしてもう8ヶ月が過ぎました。今年の計画もほぼ予定通り消化しようとしているところで、改めて会設立の思いやUDフェア10年を振り返りFUD原点に思う事は、残念ながら我々のUDはあまり進歩していないんだな～と思うことがしきりです。

福島県でUDが始まったH12年に訪れた北欧では、あくまでヒューマンテックにUDを推し進め社会システムと物づくりで実績を重ねている福祉社会を目の当たりにし、それから5年後のH17年にアメリカに行き、行政と民間NPOの活動の合理的で活発な刺激的活動に感動しながら、福島のNPOのUD運動をがむしゃらに進めてきました。

「ふくしまUDフェア」をはじめ補助金を頼りにUDの啓蒙を旗印として行政と二人三脚で福島のUDを開拓してきました。UDの認知度も県内でも60%を超えるようになりました。しかし、UDは相変わらず啓蒙を前提にお勉強会で内向きで、社会的な提言や実現が進められていないことに焦りを感じるようになりました。そこで今年からはこの機に社会や会外に積極的に目を向け働きかけ仲間を集い陣容を立て直して、新たなUD運動の展開にチャレンジしてゆこうと考えております。

UDのもう一人の主役は市民でありユーザー消費者であります。社会を安全・安心・快適にするのも、また我々の責任であり目標のはずです。当然待っていてそのような社会が実現出来るものでもなく、少しでも勝手に良くなるものでありません。我々市民やFUDがUDに何が出来るかが問われ・・・一人一人の自覚と責任こそNPOの原点であります。

我々会員一人ひとりが、

(FUD)会やUDに何が出来るか？出来たか！が問われています。

- UDの専門的な学習と実践活動への自主的参加
- UDの連携や普及・企画事業への協力・支援・援助
- UDの事務局・委員会・理事会への積極的な協力と参加

事務局のスタッフ(時間・仕事・得意技術など自由)募集中です。

■ 弱き者の心の次元に降りて

日本大学理事 小野沢元久



各地で地域社会の衰退が目立っている。もちろん社会がその時代の政治、経済、文化などによって変容することはいたしかたない面もある。しかしそこに住む人々にとって変わってはならないものがある。それは、そこに住む全ての人々の人権が保障されているということである。人々の生活や暮らしの基盤を支えるもの、例えば医療や福祉、教育、交通などの社会インフラこそ人権であるからに他ならない。

だが、現実には必ずしもそうではない。最近、ユニバーサル社会とかノーマライゼーション社会という言葉を目にする。しかし、社会という概念は、一部の人のためだけではないはずなので、「全ての人のため」を意味するユニバーサルが冠されるのは、違和感がある。このような言葉が生まれる背景には、まだまだ社会が健常者を対象に構築されているからであろうか。

■ 青木千代美理事が社会教育功労賞で大臣表彰受ける。



青木さんは、NPO法人ふくしまユニバーサルデザインの理事を務めて頂いていますが、元々は「高齢社会をよくする女性の会」(会員約80名)代表で、郡山市男女共同参画審議会委員を務め、平成五年から十九年までは市社会教育委員の会議議長に就くなど、社会教育振興に貢献してきました。その活動が認められ、

11月16日に「社会教育功労賞」で文部科学大臣から表彰を受けました。

青木さんは、「高齢者や女性を取り巻く問題への学習支援に今後も取り組みたい」と話しています。<福島民報記事より>

■ 小野勉専務理事の近況

残念なお知らせです。小野勉専務理事と連絡が取れず思案していましたが、お兄さんと連絡をとることができ彼の現在の状況が分かりました。現在は福島市の大原総合病院に入院していますが、意識がない状態だそうです。お見舞いもかかないませんが是非心に留めていただけますようお願いいたします。本当に残念でなりません。

「こおりやまユニバーサルデザインものづくりフェア」参加報告

FUD理事 小野塚彰宏

2009年10月16日(金)～17日(土)ビッグパレットふくしまで本フェアが開催されました。テーマは「物づくりとUDの融合」です。予算の制約上規模縮小となりましたが、参加体験型のアプローチで来場者の満足度は上々でした。

わがFUDは、テーマに即した「四つの視点」で自主企画参加し、フェアの質充実に貢献しました。その企画背景と実施結果をご報告いたします。

【視点1】暮らしのものづくりとUD

暮らしに必要な物づくりの原点は、地域の原材料を活かし、職人が身近な使い手のために作り込みを続ける中で、機能やデザインが収斂されてゆくという地域密着・地産地消型でした。故にそこには機能だけでは語れない地域の豊かなアイデンティティが宿っていた訳です。後に柳宗悦は「民芸」という造語でその価値を評価しています。また技を磨き芸術性を高めた「工芸」は、世界に誇るお家芸として存在感を発揮しています。今回は私たちの暮らし歴史に深く関わり進化を続ける陶芸にスポットを当て、大量生産とは一線を画したものづくりとUDを考え、また陶芸の更なる可能性への期待を込め「わくわく陶芸劇場」(四つのコーナー)を企画しました。

本企画は、地元で活躍を続ける4人の陶芸家の皆様の理解と、建設的ご協力により実現することができました。心から感謝申し上げます。

◆特別企画「わくわく陶芸劇場」

(コーナー1)「わくわく陶芸四人展」多様性・遊び心・UD

個性派陶芸家4人が、この日のために制作した遊び心あふれるユニークな作品を展示販売しました。手技を活かした多彩な作品は、多様な使い手のニーズをカバーできます。ひとつの製品でみんなに優しくというよりは、様々な個性のものを用意し自分にフィットする物を選んでもらう、多様性(ダイバシティー)によるUD表現です。それらの物たちは機能性ではくれない「味わい」の領域を兼ね備え、使っていく中で効率や使い捨て文明が「愛でる」「育む」心まで消費していた事を気付かせてくれます。(個人が所有する物は「みんなに優しい」より「私にとって心地よい」が好まれるようです)

(コーナー2)「作家によるロクロ実演」プロのすて技

普段見せる事のないロクロや叩き板技法などプロならではの職人芸を披露しました。土の塊が見る見る形を変えるさまは、まるで命が吹き込まれていく様でした。後半は見学者からロクロチャレンジャーが現れ、簡単そうで難しい体験をするなど予定外のハプニングが劇場を盛り上げました。



(コーナー3)「使いやすい器を作ろう」UDを作りこむ

作家から「使いやすい」を作り込むポイントを伝授していただきました。11月の焼き上りも上々のようで次はオンリーワンを使う楽しみが待っています。

(コーナー4)「やきものなんでもQ & A」プロの奥行

4人の作家が直接質問に答えるというまたとない機会をつくりました。訪れた人はプロの的確な回答やアドバイスに感心しながら疑問や悩みを解決していました。

【視点2】UDの7原則を考える

◆電子紙芝居「かいだん王国のエレベーターの巻」

架空の国かいだん王国で発明されたエレベーターの物語を通して、UDとは、またその7原則を聞き手に考えてもらい気づきに誘う「楽しい」「ためになる」ワークショップでした。主に小学生を対象にした新しいコンテンツです。

【視点3】様々な利用者の立場になる

◆「みんなが使いやすい自動販売機をつくろう」

お年寄り・車椅子の方・目の不自由な人・外国人等のグループに分かれ、それぞれの立場で使いやすい自販機を考え最終的にみんなが使いやすい自販機にまとめるというプロセスからUDを理解する体験型ワークショップでした。

陶芸家の紹介

片岡哲(月十窯) Tel. 024(957)3970

凸凹や螺旋で造形的遊び心を醸しながらも握り易さを追求しています。また磁器用の原料調合で薄さと強度アップを実現しています。

吉田富夫(榎の木窯) Tel. 0247(62)3586

伝統を重んじた黄瀬戸の湯呑みは緑の釉薬を施した菊紋を貼り付け、デザインアクセントと熱さの緩和や滑り止めの役割を担っています。

渡辺安里(安里窯) Tel. 0247(62)0087

土の力強さを生かしたプリミティブな焼締め延べ皿は風格と重量感がありますが独自の叩き板技法で手取りの軽さを実現しています。

金山忍(shinobuya station) Tel. 024(944)0378

若い感性で使いやすさに「可愛い」や「楽しい」を添えた作品が特徴。今回は陶芸ワークショップを担当して頂きました。



【視点4】UD♥楽都こおりやま ◇安積中学校、合唱を披露

市立安積中学校の先生はじめ合唱部の皆様のご協力により、今年もすばらしい歌声を聞く事ができました。それぞれの個性を尊重し、ハーモニーを奏でる合唱は、ユニバーサルデザインの精神とつながります。来場者も出展者も心洗われるハーモニーに聞き入り、しばし神聖な時を満喫していました。歌い終えた合唱部の皆さんも、この様な場で地域の皆さんに聞いて頂ける機会があることを大変喜んでいました。UDと楽都の架け橋となる合唱でした。ありがとうございました。



「UD 探検隊」実施報告 —9つのグループで、27カ所をチェック!—

FUD理事 事務局長 千代貞雄

赤い羽根基金事業「誰もが安心・安全に暮らしやすい街づくりのためのユニバーサルデザインチェック～UD探検隊～」が、10月27日(火)に一般の方々、NPO ふくしまユニバーサルデザイン会員、あいえるの会会員、高齢者会を考える女性の会会員、日本大学工学部建築学科学生らの参加協力により実施されました。

郡山男女参画プラザへ集合の後、午前中UDチェックの視点を共有するための講座を受講し、9つのグループに編成後、事前に探検の許諾をいただいた27カ所の探検対象施設へ出発しました。



現地では、駐車場・アプローチ・玄関出入口・廊下・トイレ・階段・エレベーター・対応器具・その他9項目について要点を観察し、専用のシートにデータを記入していきました。

また、担当の方からインタビュー等にも対応いただき、探検を終了しました。参加の皆さんには、要改善点だけを探すのではなく、積極的にプラスの点を探していこうということに、注力していただきました。

《探検グループリーダーコメント》

■ 1グループ 小野塚彰宏

私達のグループには目の不自由な方が加わり、「なったつもり」の疑似体験では得られない現実感や気付きをいただくことができました。日大生隊員はUDを卒業研究テーマにしている方で、本体験は大変勉強になったそうです。次の機会には是非集計作業にも関わって頂き、より実践に役立つ成果を共有できると良いですね。ありがとうございました。



■ 2グループ 近藤慎吾



初めての本格的なUD探検に参加し、チェックシート・カメラ・メジャーを使って取り組みました。特に高齢者・障がい者の人とチームを組んで

回ってみて、今までのものづくりや社会システムが如何に健常者(健康な成年男子)が中心であったか気づかされ驚きです。超高齢社会の在り方や工夫努力が少し見えてきたような気持ちですが、やはり日頃から身近な人や物・家に対して一人一人がUDの視点で深く関わる事こそ一番の基本と思い、決して特別な事でなく人間として最も大切に大事な事である事を痛感しました。

■ 3グループ 千代貞雄

今回3グループ皆さんと、3カ所の対象施設を探検させていただき、いろいろな見方によって「気づき」を得る事ができました。また、思った以上にソフト面での対応がされており、安心したことも事実です。このような機会がまたある事を祈願しながら終わりました。探検させていただいた各施設の方々には御礼申し上げます。

■ 4グループ 影山温子

今回「UD」というキーワードで歩いてみたら、普段見えなかったものを見つけることができました。一つ残念に思ったのは、時間が少なかったこと。グループにお一人車椅子の方がいらっしゃいましたが、もう少し時間をかけてその方のお話を伺いながら歩けたら良かったなと思います。今回はチェックリストに沿って見る、という方法でしたが、機会があれば「UD探し」という視点で行ってみるのも面白いかな?と思いつきました。また、これから先の時代を担う子ども達と一緒に考えることができれば楽しいかもしれない…など、色々考えるきっかけになりました。

■ 5グループ 藤田源一

皆さんと一緒にUD探検をしながら、様々な人が共有する、住みやすさ・使いやすさのアイデアを押し付けしないで、さりげなく配慮された、UDの浸透した郡山でありたいと、改めて考えた1日でした。

とりわけ東邦銀行さんのパウチの設備があり、いかに多くのお客様にサービスをしているかが伺えました。



■ 6グループ 堀川吉康

お疲れ様でした。初めての参加でしたが、施設環境の理想と現実のギャップにはたいへん驚きましたし、施設を案内頂いたご担当の方から「勉強になりました。改善に前向きに取り組みたい」とのお話もあり有意義な探検活動でした。

■ 7グループ 村岡綾子

「ここは…!」そんな隊員の方の声に何度驚かされたことでしょう。文献では得られない多くの発見がそこには有りました。今回の探検を通して、UDは決して一部の専門家等に与えられた課題ではなく、皆がその意味するところを正しく理解し協働で取り組まなければならない社会づくりの方向であることを再認識させられました。

■ 8グループ 今泉英史

3カ所とも駅前であり、限られたスペースの中で、多くの方に利用していただくという難しい、課題のなか、様々な取り組みをしている事を、今回知りました。

一概にUDと言っても、制限があります。日常の生活からUDを見つける事も、UDの始まりだと思います。

ご協力頂いた皆さんありがとうございました。

■ 9グループ 山本弘道

突然のリーダー指名で、ホテルプリシードさん、うすい百貨店さん、大東銀行本店さんと3カ所を訪問させていただきました。事前の事務局連絡のお蔭か、ご担当の皆さんの対応が丁寧でした。UDの体制については、組織や予算等の兼ね合いで、もっと進めたい考えはありながら、現状となっている声が聞かれました。今後もUDの意識を常に持っていたいと思います。

Google ニュースアラートより

三重県 UD のまちづくり賞 (啓発ポスター・アイディア、施設・活動)

三重県では、できるだけ多くの人に利用しやすく配慮された施設やバリアフリー・UD のまちづくりに寄与する活動など、また啓発ポスターや、「こんなまちならだれもが暮らしやすい」、「こんなものがあれば便利だな」というアイディア (UD のたまご) を「三重県ユニバーサルデザインのまちづくり賞」として表彰しています。

佐賀県ユニバーサル推奨品、選定対象の製品を募集

佐賀県は、多くの人々が使用しやすく配慮された製品を UD 推奨品に選定し、普及を促進している。08 年までに食器や家具など計 12 点が選ばれた。

応募条件は県内に事業所があり、既に販売されているか申請から 6 ヶ月以内に販売される事が確実で、要綱に掲げた基準に適合した製品。選定委員会が適否を審査し、選定されれば、県が認定証を交付する。

第7回はままつユニバーサルデザインフェア

第7回はままつユニバーサルデザイン (UD) フェアを今年はメイン会場を天竜区二俣クローバー通り商店街とし、11月3日文化の日に開催します。

来場者が楽しみながらUDを実感できるようなイベントです。浜松市ではユニバーサルデザイン (UD) を身近なものに感じてもらうために、平成15年度より「ユニバーサルデザインフェア」を毎年開催しています。

また、市民・事業者・行政が協働・連携してUDを広めたいくため、「はままつユニバーサルデザイン実行委員会」を組織し、企画・運営にあたっています。

I A U D 国際ユニヴァーサルデザイン協議会 International Association for Universal Design

私たちはユニヴァーサルデザインのさらなる普及と実現を推進します。

第3回国際UD会議2010の論文要約 (アブストラクト) の募集を開始しました。

2010年10月30日から11月3日に開催される「第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議2010in はままつ」の、論文要約 (アブストラクト) の募集を開始しました。

『第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議2010in はままつ』
公式サイト <http://www.ud2010.net/>

郡山市のユニバーサルデザイン

郡山市市民協働推進課

郡山市のユニバーサルデザインにつきましては、郡山市第五次総合計画に重要な施策として位置づけ、市民の皆様に参加いただき、本年3月に策定しました、「こおりやまユニバーサルデザイン推進指針」に基づき取り組みを進めています。

この指針では、UDの考え方を理解する人が増えることで、ソフト面だけではなく、ハード面を推進する人材の育成にもつながると考え、「人づくり」や「地域での普及」を基盤に位置づけし、他にも、「人が集まる施設・場所」や「ものづくり」等の分野のUD推進に取り組むこととしております。

心とこころ みんなで奏でる思いやり

郡山市 UD 推進キーワード

今年度の動き

- 郡山市こどもまつりに啓発ブースを出展 (5月)
- 郡山市UDシンポジウムの開催 (7月)
- 啓発パンフレットの作成 (7月)
- UDサマー探検隊 (親子体験教室) の実施 (8月)
- ファミリーフェスタに啓発ブースを出展 (10月)
- こおりやまものづくりフェアにブースを出展 (10月)

郡山市 UD キャラクター
「こころころ」



推進の体制づくりも進めています。

- 郡山市ユニバーサルデザイン推進本部を設置し、全庁の連携のもと取り組んでいます。
- 全所属に日常的に推進を図る 270 名の UD 推進リーダーを配置し、6月には職員研修会も実施しました。
- 市民、事業者、行政が協働で UD を推進するために学識経験者や関係機関の代表者等 15 名で構成する協議会を 11 月に設置しました。

今後の動き

1月の成人のつどいや2月の市民活動交流フェスタ (市内の活動団体が一堂に会し、活動内容を市民に紹介する場) での啓発を予定しています。

FUDの皆様へ

FUDの皆様は、早くからUDに取り組まれ先駆的な役割を担っていただいております。指針においても市民、事業者、行政が協働で進めていくこととしており、皆様にも、各種事業において御協力いただければと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。